

看護セミナー

看護が進める 地域の脳卒中医療

～病院と在宅をつなぐ脳卒中地域連携～

期 日 2012年12月1日(土曜日) 13:00～17:30

会 場 東京都立川市 アレアホール6階 会議室
東京都立川市柴崎町3-6-29 TEL 042-521-7111
(アクセス方法は http://www.arearea.co.jp/access/access_rail.html でご覧ください)

参加費 1,000円(先着60名)

プログラム

入場受付 12:30～

13:00～13:15 ● **開会挨拶** 東大和病院院長 **大高 弘稔** 先生

13:15～14:00 ● **発題講演** 座長 茨城キリスト教大学 **石鍋 圭子** 先生

テーマ 『脳卒中リハビリテーション認定看護師の入院から在宅までのかかわり』
聖隷浜松病院脳卒中リハビリテーション認定看護師 **鈴木知佳代** 先生

14:00～16:00 ● **パネルディスカッション**

司会・進行 前NTT東日本伊豆病院看護部長 **諸伏 悦子** 先生
長崎県島原病院副院長 **徳永 能治** 先生

14:00～14:15 『回復期リハビリテーション 認定看護師の立場から』 **猪川まゆみ** 先生

14:15～14:30 『訪問看護ステーション 看護師の立場から』 **斎竹 一子** 先生

14:30～14:45 『訪問看護ステーション 理学療法士の立場から』 **佐藤 幸恵** 先生

14:45～15:00 『在宅支援センター ケアマネジャーの立場から』 **佐藤 裕史** 先生

15:00～15:15 **コメンテーター** 『医師の立場から』 長崎リハビリテーション病院院長 **栗原 正紀** 先生

15:15～15:25 **休憩**

15:25～16:00 **討論**

16:00～16:15 ● **総括** 札幌市立大学副学長・NPO法人理事 **中村 恵子** 先生

16:15～16:30 ● **閉会の挨拶** 昭和大学病院院長(NPO理事長) **有賀 徹** 先生

■主催：NPO法人「地域の包括的な医療に関する研究会」

運営事務局：東京都中野区中野2-2-3 (株)へるす出版事業部内 TEL 03-3384-8058 FAX 03-3380-8627

■共催：東大和病院

■協賛：株式会社へるす出版・株式会社へるす出版事業部

主催：NPO法人地域の包括的な医療に関する研究会

看護が進める地域の脳卒中医療

～多職種による協業と看護の役割～

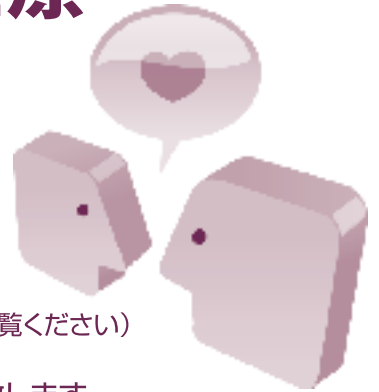
期 日 2012年12月1日(土曜日) 13:00～17:30

会 場 東京都立川市 アレアホール6階 会議室

東京都立川市柴崎町3-6-29 TEL 042-521-7111

(アクセス方法は http://www.arearea.co.jp/access/access_rail.html でご覧ください)

参加費 1,000円(先着60名) 下記申込用紙にて事前登録をお願い致します



セミナー企画意図

セミナー企画意図：全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会では「回復期リハビリ認定看護師」制度を立ち上げ、現在3期生まで誕生させ、また、日本看護協会の「脳卒中リハビリテーション認定看護師」も2009年に研修を開始、今年1期生が誕生しました。ところが、脳卒中の看護について考えてみますと以下のような現状をみる事ができます。急性期も、回復期も互いに現場では苦労しながらも、お互いに知らないという関係は医師のみならず看護の分野にも存在します。

今後の医療体制の整備の中で、機能分化・連携は非常に重要なことと考えられます。そのなかで、看護は何をするべきかを考えたとき、「地域医療の担い手は看護師である。地域連携の中心は看護であり、医療から介護へつなぐ役割は看護が担うべきである」と提言し、その活動を支援する体制づくりが必要と切実に考えるに至りました。

そこで今般、急性期に関わっている看護師と回復期・維持期に関わっている看護師を結びつけていくために看護セミナーを開催する必要性を痛感し、看護セミナーを企画致しました。

当NPO法人は医療人と一般市民との間に共通の理解を醸成するために研修会等の活動を通じて医療者と患者との協働・連携をより密接なものとする事で地域医療を確立し、誰でもが安心して医療を受けられる社会の実現に寄与することを目的として、各地域にて市民講座を開講しております。

参加申込書

FAX 03-3380-8627

お名前(代表者名可。その際は参加人数をご記入ください)	参加人数	名
ご所属		
ご連絡先		
勤務歴／急性期	年	回復期・維持期
		年